

# 国営宮古土地改良 事業完工

## 一、国営宮古土地改良事業完工式

国営宮古土地改良事業及び緑資源公団宮古古区域農用地等緊急保全整備事業完工式が、平成十二年十一月十五日に平良市内のホテルで、多数の関係者出席のもと盛大に行われました。

式典では、国、公団、県、市町村から挨拶、祝辞等があり、小山沖縄総合



完工式で挨拶する若林事務次官(当時)

事務局長は、「宮古島有史以来とも言える水利用農業の展開が可能となり、地域の歴史が塗り替えられることは誠に感慨深い」と式辞を述べ、続いて、沖縄開発庁長官(若林沖縄開発事務次官代読)から、「このような新しい試みによる農業用水を適切な維持管理により有効かつ効率的に活用され、地域の益々の繁栄につながることを確信している」と挨拶がありました。

最後に、謝辞の中で仲間宮古土地改良区理事長(城辺町長)から、「この歴史的かつ壮大な水利施設の機能を最大に生かし、地域産業の振興に寄与すべく全力を傾注していく所存である」との地元の決意が述べられ、式典は盛会のうちに閉会いたしました。

## 二、事業概要

本事業は、「水無し農業」からの脱却を図るため、平良市外二町一村の受益面積八千六百十haの畑地に対しかんがいを行的ものです。



完工式で式辞を述べる小山局長(当時)

このため、国営事業では仲原及び皆福流域の取水施設(取水ポンプ)とファームボンド六箇所、用水路パイプライン(百三十四km)、水管理施設等の基幹施設を造成し、国営事業初の風力発電施設もモデル的に導入しました。また、公団営事業では、砂川及び福里地下ダム取水施設を含む)を建設しました。

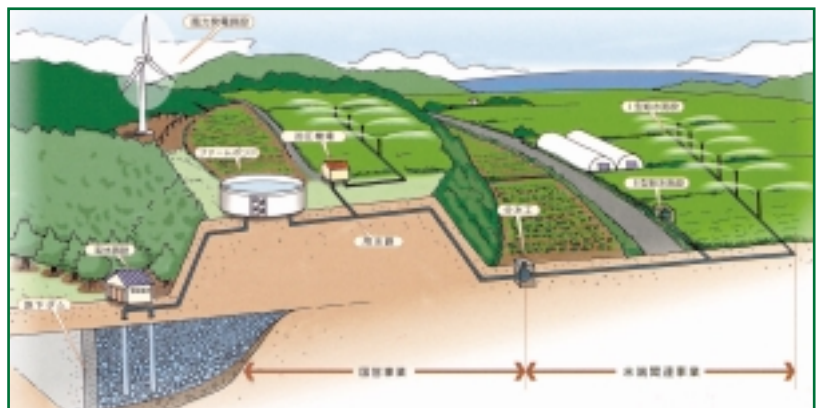
なお、県営事業と団体営事業は、末端の畑地かんがい施設とほ場整備を実施します。

農業用水は、地下ダム等流域から取水施設(取水ポンプ)によって揚水、ファームボンドに送水され、自然圧・加圧で用水路(パイプライン)を通じて畑まで配水、畑地かんがい施設(スプリンクラー等)により各畑に散水されます。

これによって、干ばつの心配がなくなり、収量の高位安定と品質の向上を図るとともに、新しく水を使った収益性の高い作物及び優良品種の導入が可能になります。

## 主要工事計画

施設	名称	概要
用水路	送水路	形式 管径 延長 管水路 200~1,000mm L=25km " 150~1,200mm L=109km
	計	L=134km
加圧機	東山第2加圧機	主ポンプ 150mm×2台 保圧ポンプ 50mm×1台 形式 実揚程 200mm×2台 65mm×1台 渦巻 11.5m
	来間島加圧機	渦巻 41.0m
ファームボンド	野原岳ファームボンド	有効容量 29,300m <sup>3</sup> 内径 73.5m 高さ 6.9m 形式 円形PCタンク
	東山ファームボンド	30,800m <sup>3</sup> 60.0m 10.9m "
	ミルク峰ファームボンド	9,900m <sup>3</sup> 34.0m 11.0m "
	仲尾峰ファームボンド	43,800m <sup>3</sup> 65.0m 13.2m "
	ピンフ岳ファームボンド	21,200m <sup>3</sup> 52.0m 10.0m "
	来間島ファームボンド	2,330m <sup>3</sup> 24.4m 5.0m "
水管理施設	中央管理所 TC・TM施設 他	一式



## 事業経過

昭和46年3月～9月……宮古島大干ばつ(185日間の降水量162mm)  
 昭和47～48年度……宮古島農業用水調査  
 昭和51年10月……八重山宮古総合農業開発調査事務所宮古支所開所  
 昭和52年10月  
 ～54年3月……皆福実験地下ダム施工  
 昭和55年4月……国営土地改良事業直轄調査宮古地区調査開始  
 昭和59～61年度……国営宮古地区全体実施設計  
 昭和62年9月……国営宮古土地改良事業施行申請  
 昭和62年10月……沖縄総合事務局宮古農業水利事業所開所  
 昭和63年3月……国営宮古土地改良事業計画決定  
 平成2年2月……国営宮古土地改良事業変更計画確定  
 平成2年2月……農用地整備公団宮古地下ダム事業所開所  
 平成4年7月……東山ファームボンド通水式  
 平成5年7月……散水式  
 平成5年11月……砂川地下ダム止水壁締め切り完了  
 平成8年3月……全ファームボンド完成  
 平成10年12月……福里地下ダム止水壁締め切り完了  
 平成12年3月……風力発電施設本体完成  
 平成12年11月……事業完工式  
 平成13年3月……事業完了

## 三、事業経緯

昭和四十六年三月十五日から百八十五日間の降水量が百六十二mmという大干ばつによって、農作物が壊滅的な被害を受けたことが、本事業実施への契機となりました。

本土復帰直後からの農業用水確保のための調査では、昭和五十四年の皆福実験地下ダムの成功により、世界に例のない大規模地下ダムの基礎技術が確立されました。

## 四、水無し農業からの脱却に向けて

このことが、昭和五十五年度からの国営宮古地区調査その後三ヶ年の全体実施設計を経て、昭和六十二年十月の本事業着手に繋がりました。

平成元年度には、本事業の早期完成を目指す目的等から、砂川及び福里地下ダムの施工を農用地整備公団(現・緑資源公団)に継紹し、以後二事業体制で推進してまいりました。

事業着手以来十四年、一部地域では既に造成施設が利活用されて水への不安が解消され、さとうきびの生産性向上の実証、野菜や熱帯果樹の導入等、様々な「水利用農業」が実践されています。

今後は、本事業の成果発現に向け、関連事業の鋭意進捗とともに、水利用技術の研鑽等により、宮古島の特性を活かした農業が二層発展していくことが大いに期待されます。



風力発電施設

